

本日、学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた2学部、246名の卒業生の皆さんに、そして修士号の学位を取得した研究科修了生12名の皆さんに、群馬県立女子大学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。ご家族や関係者の皆様方には、この日に至るまで、卒業生・修了生を支え、温かく見守っていただきましたことに感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が社会に大きな影響を及ぼしている中、この日を迎えられたことは嬉しいことではございますが、この晴れの日を心待ちにしてこられたご家族・関係者の皆様方には感染防止のため、入構をお控えいただいております。式典の様子は後ほどオンラインで配信いたしますので、卒業生の皆さんと喜びを分かち合っただければと思います。

また、本日ご出席いただきましたご来賓の皆様方には、本学を代表して厚く御礼申し上げます

皆さんの大学・大学院の最終学年は予想もしていなかった遠隔授業の実施のため、来学する機会もほとんどなく、今まで経験したことのない状況だったと思います。このような厳しい状況の中であっても、皆さんは様々な困難を乗り越える努力をし、本日の卒業式・修了式を迎えました。その努力に感謝したいと思います。

そして、皆さんは、4月から新たな社会にその一歩を踏み出します。まだ体験をしたことがない、しかも未曾有の問題に直面している社会を前にして、大きな期待ともに、不安にも包まれていると思います。このような荒海への船出を前に、最も大切なことは何でしょうか。このお話を本日はしたいと思います。私は、二点あると思っています。一つはどのようなことがあっても「挫けない心、再び立ち上がる力」を持つことです。困難や失敗に直面した時は、誰もが一度は顔を下に向け、意気消沈します。そこから少しずつ顔を上げ、立ち上がり、そして前に進む力、すなわち「挫けない心、再び立ち上がる力、レジリエンスな力」がこれから社会に出る皆さんにはたいへん大切です。

では、レジリエンスな力を身につけるためにはどのようにしたら良いのでしょうか。皆さんの最も身近なリーダーはどなたですか？それは、皆さん自身です。皆さんが考え、行動するのですから、皆さんがリーダーなのです。世の中の状況がめまぐるしく変化していく中、自分なりの意思をしっかりと持って、行動することが大切です。そのためには、必要な情報を収集し、その情報を自ら取捨選択し、そして結論を出し、行動していくことが重要です。たとえ思い通りの結果を生まなくても、自分で決めて行動したことは次のステップへの橋渡しになります。周囲の意見に合わせるのではなく、周囲の意見を取り入れながらも自分なりに考え、決定したことは失敗や挫折したとしても、それが皆さんの糧となり、前に進

む力となるのです。そして、その積み重ねが満ち足りた人生を送るための階段となっていくのです。

考えてみてください、解答のない問題に取り組み、問題点を発見し、解決するために情報収集、選択し、解決策を模索しながら結論を出し、そして行動する、この一連の動きは大学の講義やゼミ、卒論執筆などで皆さんが行ってきたことなのです。皆さんには既にリーダーシップの基本は備わっているのです。今後は、自分の中にあるリーダーシップをより一層磨くことで、自分自身のレジリエンスな力、挫けない心、再び立ち上がる力を高めてください。

社会に出て大切にしてほしいことがもう一点あります。自分の殻だけに閉じこもらず、様々な人々とのつながりを大切にしてほしいということです。単に依存するのではなく、自分自身を持ちながら絆を深めてください。

本日の卒業式も多くの方々のご支援、協力があって初めて、この新型コロナウイルス感染症が影響を及ぼしている中でも開催することができました。様々な人々とのつながりの中から、信頼できる方々との強い絆が出来上がり、それが皆さんの人生の財産となります。例えば、困難に直面した時、本学の恩師、先輩や友達、後輩にも、時には相談してみてください。そして、皆さんが手助けする側になることもあるのです。このように皆さんが本学で育んだ大切な絆を維持し、さらに大きく構築するために、昨年度から「Garnet」というサイトを本学HP上に公開しています。是非、登録して自分のためにも、そして同窓の、後輩の皆さんの何らかの助けとなるためにも活用してほしいと思います。

むすびに、大学時代に培った力、リーダーシップを土台に、様々な経験を積み重ねることで、ひとりひとりが尊敬と信頼に耐えうる社会人になることを、そして地域社会や国際社会の様々な分野や場面で活躍、貢献しうる存在になるよう成長していくことを、心より祈念し、学長式辞といたします。

令和3年3月24日

群馬県立女子大学 学長 小林良江